

2025年12月4日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 メ タ リ ア ル
代 表 者 名 代 表 取 締 役 五 石 順 一
(コード番号: 6182)
問 合 せ 先 執 行 役 員 鎌 谷 賢 之
管 理 本 部 長 C F O
(TEL. 03-6685-9570)

連結子会社である株式会社ロゼッタにおける新ビジョン策定に関するお知らせ

当社の連結子会社である株式会社ロゼッタは、創業以来掲げてきたミッション「我が国を言語的ハンディキャップの呪縛から解放する」に加え、新たなビジョンとして「人手の修正が不要な翻訳AIを創る」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

本ビジョンは、翻訳業務における人手による修正作業をなくし、AIによる完全自動化を実現することを目指すものです。また、ロゼッタが20年にわたり挑み続けてきた翻訳イノベーションの集大成であり、産業翻訳の生産性を革新する次なるステージを示すものです。

記

1. 新ビジョン策定の背景 ~ロゼッタが積み重ねてきた「実現不可能への挑戦」~

ロゼッタはこれまで、翻訳業界で「実現不可能」と言われた挑戦を次々と実現してきました。

2006年：インターネットデータを活用した統計翻訳「熟考」：ルールベース翻訳全盛期に

ビッグデータ的手法を導入

2015年：上場時に目標ビジョンとして「精度95%翻訳AI」を宣言

2017年：「T-400（ティーフォーオーワン）」で当時翻訳には適用不可能と言われていた

Neural Network（ニューラルネットワーク）技術によって翻訳AIを商用化。

「精度95%」を実現して3年で15倍成長

2024年：国内シェアNo.1の産業翻訳AIに到達※

これらの“異端の挑戦”的な延長線上に、今回の新ビジョンがあります。

※出典：ITR 「ITR Market View：対話型AI・機械学習プラットフォーム市場2024」
翻訳市場：ベンダー別売上金額シェア（2024年度予測）

株式会社ロゼッタ 新ビジョン

“人手の修正が不要な翻訳AIを創る”

Rozetta T-400
Translation for Onsha Only



2. 新ビジョンの概要：「人手の修正が不要な翻訳 AI を創る」

「人手の修正が不要な翻訳 AI」とは、翻訳結果を人が一切手直しせずにそのまま使用できる AI を指します。

現在の AI 翻訳では、訳文に誤りが含まれているため、正確さを要件とする産業翻訳用途では人手による確認・修正作業が発生しており、依然として多大な時間と費用の負担が発生しています。そこで当社はこの人手翻訳による修正が必要のない世界、つまり、

- ・翻訳業務の完全自動化
- ・言語的ハンディキャップからの解放

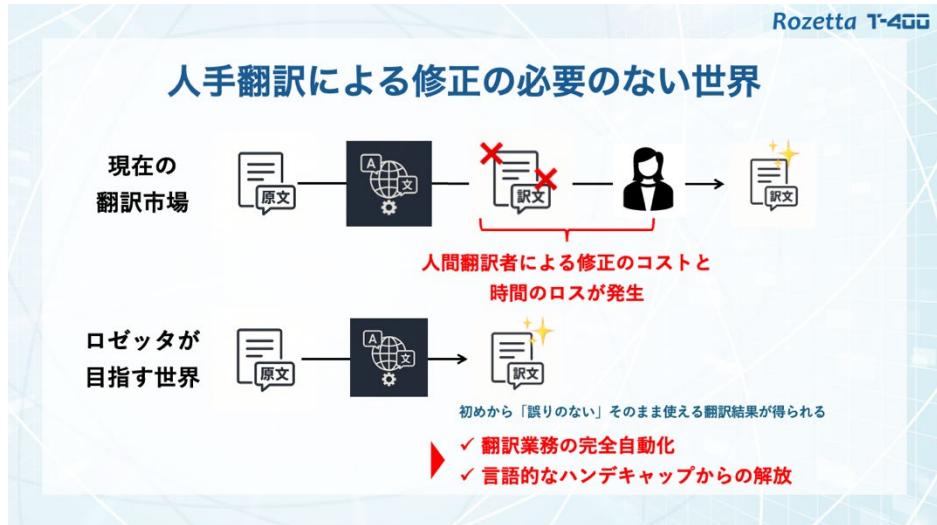
が実現された状態を目指します。

ロゼッタ：完全自動翻訳AIへの挑戦

株式会社ロゼッタが掲げる「人手の修正が不要な翻訳AI」という新たなビジョンと、それを支える過去の革新的な実績



人手翻訳による修正の必要のない世界



具体的には、人手で行っている「客観的に判定できる間違い」の修正を目指します。

現在、翻訳において「人手の修正」が存在しているものには、「①客観的な間違いの修正」と「②主観的な感性による修正」に大きく分けられます。「①客観的な間違いの修正」とは、誰が見ても客観的に間違っていると共通して判断する明白な間違いを指します。文法や語彙・固有名詞や単位・数値の誤りに加え、業界のガイドラインや会社ごとの用語集/対訳の反映ミスなどが該当します。一方、「②主観的な感性による修正」とは、客観的に正誤を判定できない、人によって意見が違う主観的な感性や好みによる修正を指し、明白な正確や共通で一致する意見が存在しないものです。

当社が目指すのは、この「①客観的な間違いの修正」が不要な世界です。当社のミッションは「我が国を言語的ハンディキャップの呪縛から解放する」ことであり、人が翻訳AIの誤りを直すという作業そのものを消滅させることです。コアバリューである企業ごとの用語体系・スタイルガイド・過去翻訳・参考文書・業界ガイドラインを正確に取り込みながら、「一意の正解が決まる領域」での人手修正をゼロにすることを目指します。

対象は「客観的な間違いの修正」

AI翻訳の結果に対する、2種類の人手による修正

①客観的な間違いの修正

誰が見ても客観的に絶対に間違っていると判断できる
明白で共通の間違い。
文法や語彙・固有名詞・単位・数値の誤りに加え、業界
のガイドラインや会社ごとの用語集/対訳の反映ミスなど

②主観的な感性による修正

客観的に正誤を判定することができない、
人によって意見が違う主観的な感性や好みによる
修正であり、明白で共通の正解が存在しないもの

ミッション「言語的ハンディキャップの呪縛から解放する」の対象
= ビジョン「人手の修正が不要」となる対象

3. 最初に注力する領域

新ビジョン実現による影響は、産業翻訳における全領域的なイノベーションではありますが、最初に注力する分野・文書として以下を想定しています。

言語：英日、日英

分野・文書：

- ・IT 通信業のマニュアル
- ・製造業の取扱説明書

これらの領域で、人手に依存していた工程の完全自動化を実現します。

4. 株式会社ロゼッタ 代表取締役 五石 順一のコメント

ロゼッタは創業以来「我が国を言語的ハンディキャップの呪縛から解放する」をミッションとしてきましたが、この度新たにビジョンとして「人手の修正が不要な翻訳 AI を創る」を掲げることとしました。「そんなのは実現不可能だ」と思われるかもしれません、早ければ来年、遅くとも 3 年以内に実現できると本気で考えています。

「何をバカなことを言ってるんだ?」と思われるかもしれません、これまでも当社は異端のビジョンを掲げるたびに「バカげている」と思われ続けました。10 年前の上場時に「精度 95% の翻訳 AI を創る」と宣言した当時も「何をバカなことを」と一笑に付されましたし、2017 年に発表して 3 年で 15 倍成長した「T-400」の中核技術となった Neural Network 技術は、当時学会では「翻訳には適用不可能」と言われていました。さらに遡れば、2006 年の初代翻訳機「熟考」では、まだ言語専門家によるルールベースの時代にインターネットのデータを使って統計処理で翻訳するという、後に「ビッグデータ」と言われる手法を採用した際も「何をバカなことを」と頭がおかしい扱いをされました。

今回掲げる「人手の修正が不要な翻訳 AI を創る」というビジョンは 10 年前の「精度 95%」に輪をかけて夢物語に聞こえるかもしれません。確かに当社独自の技術だけでは不可能です。私も先月までは思いもよりませんでした。ですが、直近の生成 AI の技術の進歩に当社のノウハウをかけあわせることによって実現できると考えるに至りました。

突飛な目標かもしれません、実現すればその影響は極めて大きい。果たしてバカげたビジョンがどうなるか?

どうぞご期待ください。

5. 今後の見通し

新ビジョン発表による当社業績への影響は現段階では軽微ですが、新ビジョン達成に向けた施策の進捗により売上高および利益に大きく寄与する見込みです。業績に与える影響について公表すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

以上